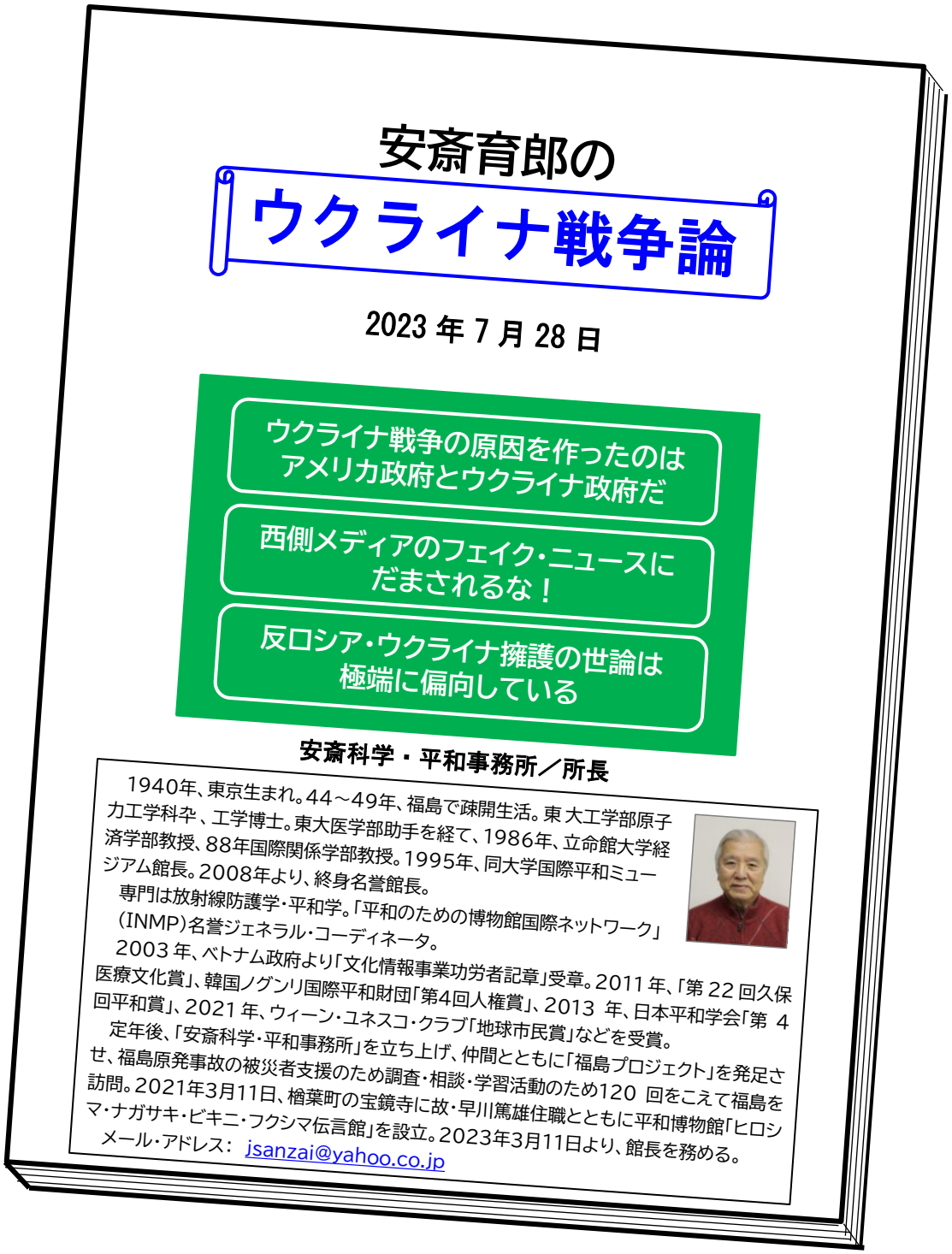
# 最新版『安斎育郎のウクライナ戦争論』、

## 堂々100 頁フルカラー、図版満載、200 円！



安斎育郎の

ウクライナ戦争論

2023 年 7 月 28 日

ウクライナ戦争の原因を作ったのは
アメリカ政府とウクライナ政府だ

西側メディアのフェイク・ニュースに
だまされるな！

反ロシア・ウクライナ擁護の世論は
極端に偏向している

安斎科学・平和事務所／所長

1940年、東京生まれ。44～49年、福島で疎開生活。東 大工学部原子力工学科卒、工学博士。東大医学部助手を経て、1986年、立命館大学経済学部教授、88年国際関係学部教授。1995年、同大学国際平和ミュージアム館長。2008年より、終身名誉館長。

専門は放射線防護学・平和学。「平和のための博物館国際ネットワーク」(INMP)名誉ジェネラル・コーディネータ。

2003 年、ベトナム政府より「文化情報事業功労者記章」受章。2011 年、「第 22 回久保医療文化賞」、韓国ノグンリ国際平和財団「第4回人権賞」、2013 年、日本平和学会「第 4 回平和賞」、2021 年、ウィーン・ユネスコ・クラブ「地球市民賞」などを受賞。

定年後、「安斎科学・平和事務所」を立ち上げ、仲間とともに「福島プロジェクト」を発足させ、福島原発事故の被災者支援のため調査・相談・学習活動のため120 回をこえて福島を訪問。2021年3月11日、楢葉町の宝鏡寺に故・早川篤雄住職とともに平和博物館「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」を設立。2023年3月11日より、館長を務める。

メール・アドレス： jsanzai@yahoo.co.jp

アメリカの世界戦略の一環としてのウクライナ戦争の本質を読み違え、反ロシア・ウクライナ支援一辺倒に傾く戦争観は著しく偏向している。事実に基づいて誰が何のために起こした戦争なのか、しっかり見据えよう！

# まえがき

この資料を読むには、読者にある種の「覚悟」が求められます(笑)。

というのは、おそらくは読者の皆さんがこれまで接する機会がなかった情報や、「えっ、そんなこともあるのか？」といったびっくりするような記述に頻繁に出くわすに相違ないからです。

先日、ある平和団体から送られてきた「賛同」要請の文書には、「ウクライナを版図に組み入れるために、ウクライナの国家と民族・文化を地上から抹殺することを狙った〈プーチンの戦争〉。破壊、殺戮、拷問、凌辱、そして子どもたちの強制連行―このプーチンによる世紀の蛮行をいまこそ打ち砕こう！とあり、「ロシア侵略軍にたいして徹底抗戦を続けているウクライナの人々は、いま悪逆非道の侵略軍を東部および占領地から追い出す大攻勢に起ちあがっています。このウクライナの人々と連帯して、プーチンのロシアによるウクライナ侵略に反対する反戦の声を、日本の地からいっそう大きくあげましょう」と書かれていました。

正直、私はドン引きしました。

本当にこの戦争は「悪逆非道なプーチンの侵略戦争」なのでしょうか？

私はロシア贔屓でもウクライナ嫌いでもありませんが、ソ連崩壊後にウクライナが辿った歴史を詳細に学び、この戦争が始まった後ウクライナや NATO 諸国で何が起こっているかについて事実を直視すれば、直ちに、上に紹介したようなウクライナ戦争観に対する疑問が湧くに相違ありません。歴史と現実に誠実に向き合うこと―これこそが私たちに求められていることであり、とんでもない独善的思い込みに陥らないための必要最小限の態度です。

私は、ウクライナ戦争を誘発した原因は、「アメリカによるウクライナの NATO 加盟への勧誘と、「親ネオナチ系ウクライナ政権によるロシア語話者への民族浄化的軍事弾圧」にあると確信しています。2008 年に NATO 首脳会議でブッシュ大統領がウクライナの NATO 加盟を提案し、2009 年に発足したオバマ政権のもとでジョー・バイデン副大統領とヴィクトリア・ヌーランド国務次官補を中心にウクライナへの親米政権樹立を企て、2014年のユーロ・マイダン・クーデターによって親米傀儡のポロシェンコ政権をつくり、極右民族主義者集団(ネオナチ)を正規軍に編入して東部ドンバス地方のロシア語話者に民族浄化まがいの軍事弾圧を加えた結果起こった戦争だと、私は深く信じています。

アメリカは、ウクライナの NATO 加盟問題をテコにロシアを戦争に引きずり込んで疲弊させ NATO 諸国を対ロ制裁に誘い込んで、ドイツをはじめとしてロシアの天然ガスなどのエネルギー資源に依存してきたヨーロッパ諸国の経済を混乱に陥れ、エネルギー資源の対ロ依存を対米依存に転換させてアメリカ一人勝ち状態をつくる―これこそが、21 世紀型のアメリカの世界戦略の一環として、10 年以上にわたって周到に準備されたウクライナ戦争の実態であると思います。なぜそう確信するに至ったか、どうぞこの冊子をお読み頂きたいと思います。

なお、ロシアはこの事態を「ウクライナ戦争」とは呼んでおらず、「特別軍事作戦」と称していることは承知していますが、実態としては現在「ロシア対 NATO」の戦争に発展しており、本冊子では「ウクライナ戦争」という言葉を用います。

この冊子が皆さんのウクライナ戦争観形成に役立つことを期待します。

# 目次

全面展開！


ページ

3 まえがき
4 目次
5 ウクライナ戦争とは何か？
5 1. はじめに
5 2. NATO の東方拡大
9 3. アメリカによるウクライナへの傀儡政権樹立の画策と親ロ派住民の動き
13 4. ポロシェンコ政権の成立とネオナチ（極右民族主義者）勢力も動員したロシア語話者への軍事弾圧の始まり
16 5. ポロシェンコ政権の対米傀儡ぶり
17 6. ミンスク合意
19 7. ゼレンスキー大統領登場
21 8. ウクライナで戦闘勃発
23 9. ウクライナ戦争を起こした原因
25 10.和平への動きと破綻
29 11. フェイク・ニュースだらけの西欧のメディア報道
29 ①マリウポリ小児科・産科病院爆撃事件
30 ②マリウポリの劇場爆撃事件
31 ③ブチャの大虐殺事件
37 ④ロシア兵による少女レイプ事件
39 ⑤クラマトルスク駅爆撃事件
41 ⑥クレメンチュクのショッピング・センター砲撃事件
44 12. ゼレンスキー政権のもとでのウクライナ政治・社会の実態
44 ①ゼレンスキー政権独裁化への道
46 ②和平模索から戦場の勝利志向へ
47 ③ウクライナ戦争の戦況
50 ④ロシアにより東南部4州の編入
51 ⑤ウクライナ語話者とロシア語話者の対立
52 ⑥ゼレンスキー政権下で起こっていること（薬物汚染／治安／ナチ化／徴兵）
57 13. ウクライナ戦争におけるいくつかの重要事件
57 ①対ロ経済制裁
60 ②ノルドストリーム爆破事件
64 ③クリミア大橋爆破事件
68 ④ポーランドへのミサイル着弾事件
70 ⑤カホフカ・ダム決壊事件
76 ⑥子ども連れ去り事件
81 14.結局、この戦争は誰がどういう目的で起こした戦争なのか？
81 ①「ロシアの戦争」ではなく、「アメリカの戦争」
82 ②「侵略戦争」と「人道的介入」
83 ③アメリカの戦略的な狙い
84 ④ウクライナ・NATO 連合が勝ったらどうなるか？
85 15. インドや中国のスタンス
87 16. ウクライナ戦争への日本の対応の誤り
91 17. 和平への道
94 18. おわりに―本冊子発行以来の爆発的普及速度に驚きつつ
97 私のもう一つのライフワーク
98 この冊子の申し込み方法
99 〈エピソード〉あるウクライナ兵の告白

# 豊富な図版

2月19日、政府と野党勢力はデモ隊との休戦に合意したものの、極右民族主義派の右翼セクターや全ウクライナ連合「自由」(スヴォボーダ＝極右・反ユダヤ政党)系列などのデモ隊は合意案を拒否、銃器を振り回し、武力で議会を掌握しました。

ヤヌコーヴィチ大統領と野党指導者は、2014年2月21日、事態収拾に向けて EU(欧州連合)が仲介した合意文書に署名しましたが、その2週間前、現場で指揮に当たっていたアメリカのヴィクトリア・ヌーランド国務次官補は、ウクライナ駐在のアメリカ大使ジェオフリー・パイアットとの電話で「EU なんかくそくらえ」(Fuck the EU)と発言していたことが暴露されました。アメリカは EU のイニシャチブによってではなく、あくまでアメリカ主導でこのクーデターを完遂する意図を持っていました。ヌーランドのパートナーはロバート・ケーガンで、『ネオコンの論理―アメリカ新保守主義の世界戦略』の著書がある「アメリカのネオコンの理論的支柱」と言われている人物です。

こうして、アメリカが50億ドルの巨費を投じて演出した暴力的なユーロ・マイダン・クーデターは、4年前に正当な選挙によって選出されていたヤヌコーヴィチ大統領を暴力的に解任しました。実は、2010年の大統領選挙でヤヌコーヴィチ候補が支持を集めていたのは、下の図に見るように、ロシア語を生活言語として用いている人々が多いウクライナ東南部の人々の支持票でした。

# アメリカはクーデターで傀儡政権を作った

## ポロシェンコ米傀儡政権の誕生

**2014年5月**

ペトロ・オレクシーヨヴィチ・ポロシェンコ。ウクライナ最大のチョコレート会社「ロッシェン」の代表で、億万長者。

社会民主党→親ロシア政党「地域党」→「われらがウクライナ」→地域党復帰などの転歴。

対ロシア強硬姿勢をとり、ドンバス内戦へ突入。

ポロシェンコ大統領は、NATO 加盟を含むウクライナの軍事化を進めるとともに、アゾフ大隊などの極右民族主義者の民兵集団を国軍に編入し、ウクライナの東部ドンバス地方に住むロシア語話者に対して民族浄化とも言うべき軍事弾圧を加え始めました。

ヒトラーの写真と記念撮影するアゾフ大隊メンバー

ネオナチとは、極右民族主義を源流とする第二次世界大戦後の政治運動・組織の総称。

アゾフ連隊は、マリウポリで結成されたネオナチ系の民兵集団を源流とし、ウクライナが内務省管轄の正式軍事警察組織に組み入れた部隊。

やがてウクライナの正規軍に組み込まれたアゾフ連隊

国軍に組み込まれたアゾフ

アゾフのエンブレム

ナチスドイツの武装親衛隊第二2SS装甲師団のロゴ

2014 年に行なわれたポロシェンコ大統領の演説は、大変恐しいものでした。大統領が与する「ウクライナ語を話すウクライナ人」の政府が、「ロシア語を話すウクライナ人」を敵視する立場を公然と表明したのです。

# 戦争の本質に切り込む

## 9. ウクライナ戦争を起こした原因

こうして見てくると、ウクライナ戦争を誘発した原因は「アメリカによるウクライナの NATO 加盟への勧誘」と、「親ネオナチ系ウクライナ政権によるロシア語話者への民族浄化的軍事弾圧」にあることは極めて明白で、それらがなければこの戦争は起こらなかったに相違ありません。その意味では、この戦争の原因を作ったアメリカ政府とウクライナ政府の責任に目を向けない日本の平和運動のウクライナ戦争観は的外れであり、一方的な反ロシア・キャンペーンによって反ロシア・反ロシア人感情を蔓延させることは、将来の平和創造にとっても障害を残すことになるに相違ありません。

ロシアはしばしばクマに譬えられますが、私は、クマの目や心臓を突っついたりしたらクマが暴れることを承知の上で、あるいは、クマを暴れさせてヘトヘトになるまで疲弊させることを目的としてクマの目や心臓を突っつき続けたアメリカは、この事態に最も重大な責任を負うべき立場にあると確信しています。

ウクライナへの NATO 拡大とか、傀儡政権を作って極右勢力を正規軍に組み入れてウクライナ東部のドンバス地域のロシア語話者に対して民族浄化的軍事弾圧を加えたりしなければ、こんなことは決して起こらなかったのです。

クマを暴れさせる目的で突っつき回しておいて、暴れたクマに「ルール違反！」とレッドカードを突きつけ、暴れさせた原因者の責任を一切問わずに、暴れたクマの責任を一方的に問うばかりか、クマをさらに突っつき回すためにさらに槍や礫（つぶて）を供与し、クマを鎮静化させるどころか、さらにクマが疲弊し尽くすまで暴れさせようとするのはいかがなものでしょう。

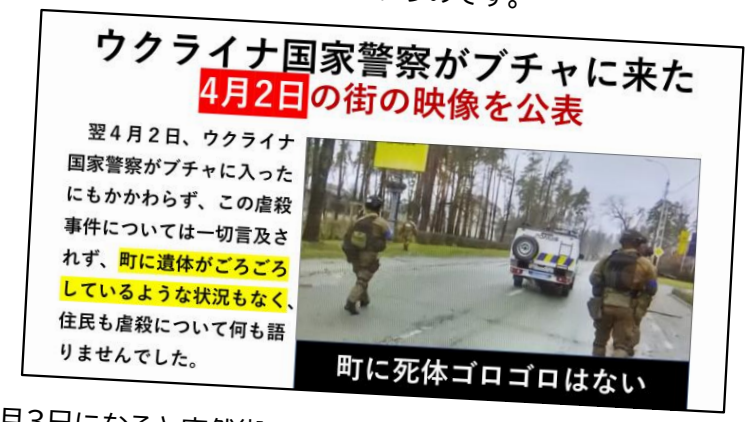
戦争を誘発したアメリカの責任を真っ先に問わずに、もっぱらクマの責任を問うという考え方は驚くべきものですが、残念ながら日本では「ロシア批判一点張り」の実態があります。戦争が起こるに至った歴史的事情や、目の前で起こっている非人道的事態に、事実に基づいてキチンと目を向ける視点が欠落しているのではないかと思います。アメリカのオバマ政権がウクライナに傀儡政権をつくるために企てたユーロ・マイダン・クーデター、新傀儡政権のもとでのウクライナ NATO 化の推進、そして、極右民族主義者の民兵集団を国軍に編入して、同じウクライナ人でありながらロシア語を話すという理由で軍事弾圧を加えた親ネオナチ・ウクライナ政権―これらの実態をしっかりと見据えることなしに、ウクライナ戦争がなぜ起きたのかを正確に理解することはできないでしょう。

ロシア側の「特殊軍事作戦」の目的は、プーチン政権が繰り返し主張しているように、ウクライナ東南部のロシア語話者が不当な反人権的暴虐を受けないようにすることですが、ウクライナと NATO 諸国の目的は何なのでしょう？ウクライナを NATO に加盟させ、ウクライナに米軍を含む NATO 軍の基地を築いて、「キューバ危機」さながらのロシアとの核対決構造を常態化させることが目的なのでしょうか？

アメリカのオースチン国防長官は、アメリカはウクライナ戦争を通じてロシアの国力を弱体化させることを望んでいると公然と言い放ちましたが、そのためにはロシアが疲弊するまで戦争を続けなければなりません。2022年４月 20 日、NATO 外相会談などに出席しているトルコ

# ブチャ虐殺事件の真相

翌4月2日、ウクライナ国家警察がブチャに入ってパトロールしましたが、この虐殺事件については一切言及されず、公表された映像にも町に遺体がゴロゴロしているような状況は見られず、住民も虐殺について何も語らなかったというのです。




ところが、翌4月3日になると突然街に遺体が現れ、マスコミの撮影会が行われ、ロシア軍による大虐殺として世界中に報道されました。フランスの AFP 通信などによって、「民間人とみられる多数の遺体や集団墓地が確認された」と報じられ、大問題になりました。ウクライナのゼレンスキー大統領はこの日アメリカの CBS の番組で、ロシア軍の一連の行動は「ジェノサイド」であると主張し、イギリスのボリス・ジョンソン首相は「プーチンとその軍団による新たな戦争犯罪だ」と激しく非難する声明を出し、制裁やウクライナへの軍事支援を強化する考えを示しました。

しかし、下の図にあるように、見落としてはならない一つの事実がありました。3月31日、極右民族主義の私設軍団ボツマン・ボーイズがブチャに到着し、翌4月1日、司令官のセルゲイ・コロキックー（通称：ボツマン）がツイッターに、「ただの焼け跡だ。焼けた機械や家ばかりで、特にやることはなかった」と投稿しました。ボツマンはベラルーシ出身の極右民族主義者で、ロシアでのテロ攻撃に失敗した後、ロシアを逃れてアゾフ大隊の教官になり、司令官としてドンバスの戦いに参加、ウクライナで富と地位を築いて、国際人権委員会の反対にもかかわらずポロシェンコ大統領からウクライナのパスポートを手に入れました。

# ロシア兵のレイプ事件の大うそ

## ① ロシア兵による少女レイプ事件

2022年4月中旬、「ブチャの大虐殺」が大きな話題となる中で、ウクライナ議会の人権委員リュドミラ・デニソーヴァが、ロシア軍がブチャ市を占領していた期間中に「未成年者を強姦したと非難しました。そして、デニソーヴァは彼女のフェイスブックに、ロシアの占領者たちによってレイプされたとされる少なくとも 2 人の未成年者、14 歳の少女と 11 歳の少年の事件をリストした記事を投稿しました。

デニソーヴァの証言は具体的で迫真性があり、例えばこんな風でした。

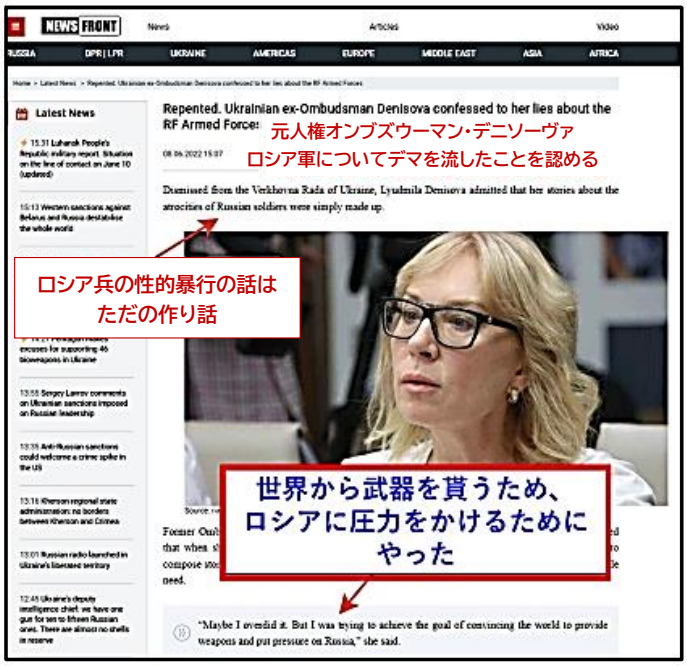
「ブチャにある家の地下室で 14 歳から 24 歳の少女や女性 25 人がロシア軍の占領中に組織的にレイプされました。そのうち 9 人が妊娠しています」(イギリス BBC 放送での証言)

「『ナチスの売春婦はみんなこうなる』と、16歳の妹が路上でレイプされるのを見なければならなかった 25 歳の女性もいました」。

ところが、これらの「証言」なるものは、すべて、テニソーヴァによる作り話だったのです。

ウクライナの人権団体が、もしもレイプ事件が本当なら、被害者の救済に当たらなければならないので、デニソーヴァに一体どこの誰がいつどこでどのようなレイプ事件を体験したのか問い質しましたが、答えは一向に要領を得ず、埒があきませんでした。

やがて、国会議員パヴェル・フロロフは、「デニソーヴァの主張には不可解な点があったが、彼女は証拠を示せず、ウクライナに害を及ぼしただけだった」と語りました。デニソーヴァが発信するロシア兵による性犯罪や小さい子どもに対するレイプ事件については、ウクライナ国内で事実関係が確認されず、かえってウクライナに悪影響を与えるということでメディアやプロパガンダ制作関係者まで「ドン引きした」のです。



# ゼレンスキー大統領のウソも暴く

## ショッピングセンター砲撃事件

ところが、大統領が「1000 人が買い物中」とウソをついてグーグル情報と矛盾を来したため、あわててグーグルもこのショッピング・センターついて「永久閉鎖」から「開店中・22時閉店」(Open・Closes 22:00)と書き換えました。「グーグルもグルか？」と揶揄された事件です。

しかも、この事件を報道した日本のテレビ映像も、NHK を含めて合成映像をそのまま垂れ流しするなど、ひどいものでした。

ミサイルの輪郭がフニャフニャで、合成映像であることは一目瞭然でした。

下に私(安斎)が作った合成映像を例示しましたが、こうした加工映像を作ることは簡単なことなのに、余りにも稚拙な合成映像を NHK もそのまま放映したのです。見破る能力の問題というよりは、そもそもこうした映像をチェックする姿勢が欠如しているように思われます。

# 大統領の麻薬中毒もタブー視しない

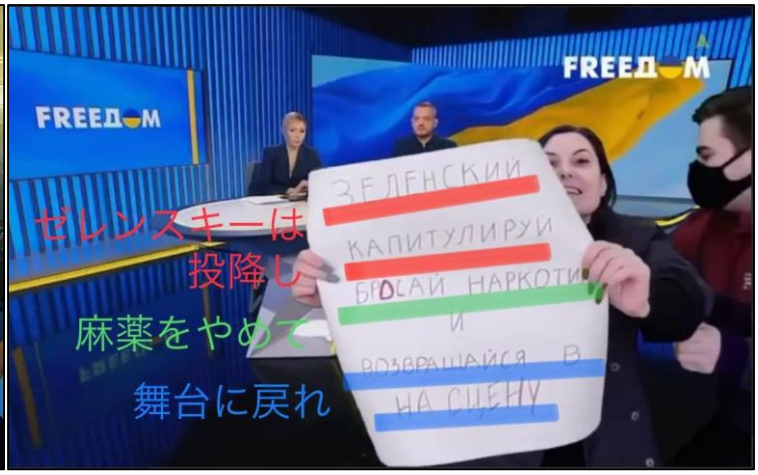
## ③ ゼレンスキー政権下で起こっていること

### ◆薬物汚染

国連薬物犯罪事務所（UNODC）は2022年6月27日、年次報告書を公表し、ウクライナで違法な薬物の生産が急増する可能性があるとの見通しを示しました。ウクライナで閉鎖されたアンフェタミン（覚せい剤の一種）生産工場の数は2019年に17だったのが、翌年には79と急増し、世界最多だったということです。しかも、UNODCは、ウクライナで戦闘が続く中、同国の合成薬物の製造能力は拡大する可能性があるとし、「取り締まって工場を停止させる警察もいない」と述べました。

ウクライナ・メディアの報道によると、2022年 8 月 25 日、キーウで48歳のユーリイ・チェルネツキーという麻薬の売人が拘束されましたが、彼はゼレンスキー大統領と与党『人民の奉仕者』代議士にコカインを供給していました。キーウで組織的にコカインを販売しており、車から 20 袋以上のコカインが押収されました。

ユーリイ・チェルネツキー




勇気ある女性がテレビに乱入。「投降し、麻薬をやめて、舞台に戻れ！」

ゼレンスキー大統領は、メディア・インタビューで以前から薬物摂取を疑われていました。ウクライナ大統領府のオレクシイ・アレストビッチ顧問（2023年1月、辞職）は、8月27日、ゼレンスキー大統領の麻薬中毒を非難しないよう呼びかけるとともに、ウクライナ兵が麻薬を使用していることを認めました。「戦争は怖くて辛く、薬物無しで行うことはできない。だからみんな中毒になっている。彼（ゼレンスキー）は司令官で責任感が強い人間で、サイボーグではありません。このことで彼を非難する権利は誰にもありません。議論する必要さえ全くないのです」とコメントしました。

# 世界有数の汚職国家ウクライナの治安

**◆治安**

治安の面でも驚くべき状況が起こっています。

ウクライナ軍兵士や極右民族主義者やロシア系住民に憎しみをもつ市民が、少数民族やロシア語を話す民間人などをいろいろな理由をつけて街灯柱や街路樹にテープで括り付け、下半身を剥き出しにさせて、暴力を振るっています。日本では考えられないような実態を示す映像が国際社会に出回っています。 残念ながら、これが「民主主義国家ウクライナ」で起こっている現実です。助けに行こうものなら、その人が括られることになるので、通行人も見物するか、見て見ぬふりをするか、あるいは逆に加勢するかです。こうした乱暴な行為に及ぶ人は一部に過ぎないにしても、それが街中で白昼堂々行なわれることには驚きを禁じ得ません。

右の女性は「パン」の発音にロシア語なまりがあるという理由で縛られた。

# ノルドストリーム・ガスパイプラインを爆破したアメリカ

ロシアのワシリー・ネベンジャ国連大使は、この決議案に関するアメリカの反応について、「アメリカ自身がその行動によって事件への関与をさらけ出している」とコメントし、アメリカとその同盟国が、客観的な国際調査の開始を避けるためにあらゆる手段を講じたことを喚起した上で、「まず、アメリカはこのパイプラインを爆破すると最高レベルで公然と脅した。その後、アメリカは爆破について嘲笑し、喜びを表した」と述べました。

第一の「最高レベルで公然と脅し」の意味は、バイデン大統領が2022年2月7日のドイツのショルツ首相との会談の後の記者会見で、「ロシアが侵攻すれば、ノルドストリーム2を終わらせる」と言い、ヴィクトリア・ヌーランド国務次官も、「ノルドストリームに関しては、私たちはドイツの同盟国と非常に強力で明確な対話を続けています。今日は、みなさんに明確にしたいと思います。ロシアがウクライナを侵略した場合、何としてでも、ノルドストリームは前進させません」と明言していたことです。

そして、第2の「爆破について嘲笑し、喜びを表した」の意味は、ヌーランド国務次官が2023年1月26日のアメリカ上院の公聴会で、テッド・クルーズ議員の質問に答え、「クルーズ上院議員、私もあなたと同じです。あなたが言うように、ノルドストリーム2 が現在“海の底にある金属の塊”とでもいうものになったことを知って、私もそして政権も非常に満足していると思います(”Senator Cruz, like you, I am, and I think the administration is, very gratified to know that Nord Stream 2 is now, as you like to say, a hunk of metal at the bottom of the sea.”)」と発言したことを意味しています。

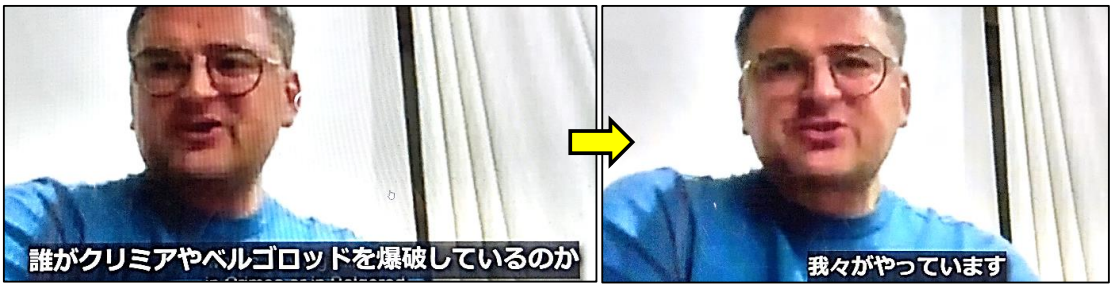
アメリカ上院公聴会でノルドストリーム爆破について証言するヌーランド国務次官

# クリミア大橋爆破事件も欧米とウクライナの仕業

ゼレンスキー政権の「海上襲撃作戦」を支援するための提案は、英国陸軍の上級諜報員クリス・ドネリーの要請で作成されましたが、その計画の核心こそ「クリミア大橋の破壊」でした。2022年4月、イギリスがウクライナとロシアの和平交渉を妨害したと報じられたのとほぼ同時期に、イギリスの諜報機関の工作員は、1 日何千人もの民間人が渡るロシアの主要な橋を破壊するための青写真を描いていたのです。

ロードマップを作成したのは、イギリスの退役軍人ヒュー・ウォードでしたが、彼は、ロシアの能力を低下させ、モスクワの戦闘能力を削ぎ取り、クリミア大橋経由の海上および陸上の補給路を断つことによって、クリミアのロシア陸海軍を孤立させることを目指していました。

ロシア当局は爆発物の輸送に関与した輸送業者や輸送経路も詳細に解明し、容疑者8人を拘束しましたが、ウクライナ政権がこの爆破事件に関わっていたことは、例のロシアの「なりすまし電話コンビ」ヴォヴァンとレクサスが元アメリカ大使のマクフォールに成りすましてウクライナのクレバ外相にかけた電話で、外相自身によって告白されていました。



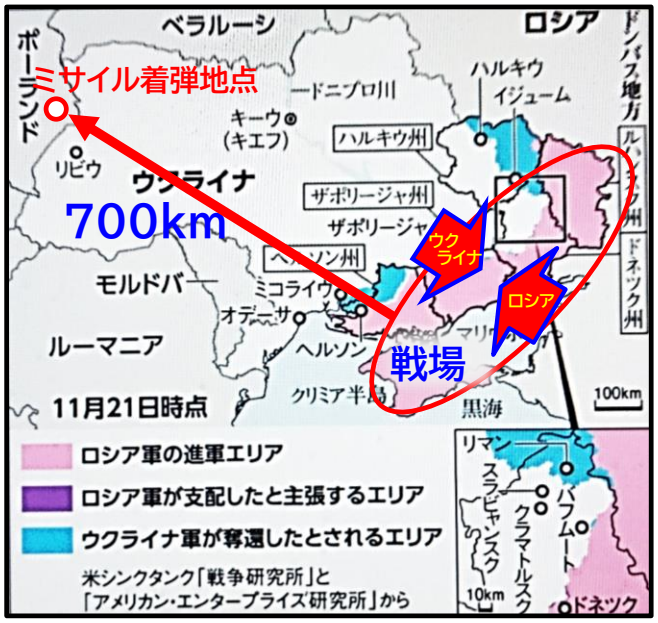

2022年10月14日、「なりすまし電話」に応対するウクライナのクレバ外相

10月8日、クリミア大橋の爆発が起きてから数時間後、この事件の記念切手が発売され、首都キーウ中心部に事件をモチーフにした切手型の大型パネルが登場して、ウクライナ市民の撮影スポットが作られていました。ウクライナで2番目に大きな銀行からは、記念のデビット・カードが発行されました。これらの事実もまた、この爆破がウクライナ政府によってあらかじめ準備されていたことを如実に示しています。

# ポーランド国境へのミサイル着弾事件

ポーランドのルビリン市元市長ヤルスロー・パクラ氏は、「もちろんこれはウクライナのロケットだ。もちろんそれはウクライナ当局の側による挑発だ。ロケットが間違って100km も反対方向に飛ぶなんてあり得ない」という見方を示していましたし、ベラルーシのルカシェンコ大統領も「ロシアのミサイルを迎撃するのであれば東に向けて撃つはずだが、なぜ西に行ったのか。なぜ G20 の最中だったのか、なぜみんな沈黙を貫くのか、そういう取り決めになっているようにしか見えない」と批判しました。

パラク氏やルカシェンコ大統領の見解は理由のあることです。下の図を見て下さい。




ポーランドへの着弾地点は、ウクライナ戦争の戦場から700kmも離れている上、ルカシェンコが言うように、もしもこれがウクライナによる迎撃ミサイルだというのなら、ミサイルは図の左から右へ(西から東へ)向かうは筈なのに、逆向きのポーランドの方に700kmも飛んで行っています。どう考えても、非常に奇妙な話です。

合理的に考えれば、このミサイルは、ウクライナが意図的にポーランドの国境に着弾するように仕掛けて発射したものということでしょう。そう考えるのが最も自然です。

しかし、それは NATO をロシアと直接対決させることになりかねない極めて危険な行為と言わなければなりません。ゼレンスキーはロシアに対する核先制攻撃を NATO に呼びかけたりした実績もあり、箍(たが)が外れると何をやり出すか分からない、不穏な人物でもあります。

# カホフカ・ダムを攻撃したのは誰か？

## ③ カホフカ・ダム決壊事件

2023 年 6 月 6 日 2 時 50 分、ドニエプル川に設置されたヘルソン州のカホフカ水力発電所の取水ダムが決壊し、下流域に膨大な浸水被害をもたらし、流域一帯の生態系にも大きな影響を与えました。

6月9日、ドイツの新聞「ビルト」のポール・ロンツハイマー副編集長がゼレンスキー大統領に、「カホフカ水力発電所爆破へのロシアの関与を証明して欲しい」と求めたところ、大統領は顔色を変えて声を荒らげ、「そのような証拠を提示することは不可能だ」と断言したといいます。証拠も示せずに「ロシアの仕業」と断定的に主張することは非常に奇異なことですが、ロンツハイマー副編集長は、「ゼレンスキー大統領が限界に達している」と感じたということです。ビルト紙は、1952 年にアクセル・シュプリンガー社が創刊したドイツのタブロイド版日刊新聞で、発行部数は 2021 年時点で約 115 万部。ヨーロッパで最も売れている新聞で、世界でも 6 位にランクされています。

国連安全保障理事会は、6月6日、カホフカ・ダム決壊に関する緊急公開会合を開きましたが決壊の原因が明らかでない中にもかかわらず、欧米各国代表は名指しでのロシア非難を避けつつも、ロシアのウクライナ侵攻がダム決壊につながったと批判し、ロシアに対する責任追及の構えを見せました。イギリスのジェームス・カリウキ国連次席常駐代表は、ロシアが民間施設への攻撃を繰り返してきたと前置きして、「ダム決壊の責任が証明されれば品位の低さを新たに示すことになる」と、ウクライナがドンバスの民間施設をさんざん攻撃した過去を棚上げにし、「証明されれば…」という仮定的前提に基づいてロシアを貶める発言をしました。

国連のグテーレス事務総長も、ダム決壊について「国連の独自の情報はない」としながら、「ロシアの侵攻の結果だ」と強く非難しました。

そればかりか、環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんも、「ロシアはその行動と犯罪に対して責任を負う必要がある。今、世界中が見張っている」と述べ、「世界が言葉を失うような残虐行為だ」と SNS に投稿しました。証拠も定かでないままに、こうした発言をすることは厳に慎むべきでしょうが、これらの西側諸国の動向を伝えたマスメディアは、明らかに、カホフカ・ダムの決壊はロシアの仕業だという印象を世界中に撒き散らしました。

ロシア外務省のザハロワ情報局長は、6月10日、通信アプリ「テレグラム」への投稿で、ウクライナ軍が2022年7月～11月にアメリカから供与された HIMARS などで計 28 回、カホフカ・ダムを砲撃したとする一覧表を発表しました。

様々な情報を総合してみると、カホフカ・ダムをロシアが自ら破壊するメリットは考え難く、2022 年から度々ダムをアメリカのハイマースなどで攻撃してきたウクライナこそが責任を負うべき事件だと私は感じています。調査もろくにせずに「ロシアのせい」と囃し立てた西欧、国連、一部の活動家の行動にはいかにも胡散臭いものを感じていましたが、この事件の本質は経過からしてウクライナ側が責任を負うべき性格のものであることは間違いないと考えます。

# ロシアによる子ども連れ去り事件なるもの

プーチン大統領とともに国際刑事裁判所が逮捕状を出したのは、大統領全権代表（子どもの権利担当）のマリア・リボワ・ベロワ氏ですが、彼女は 2023 年 4 月 4 日の記者会見で、次のように語りました。

マリア・リボワ・ベロワ大統領全権代表（子どもの権利担当）

「ロシアはウクライナとドンバスから 500 万人以上の難民を受け入れています。そのうち 73 万人以上が子どもです。子どもたちの大半は両親、保護者と一緒に法的な代理人とともにロシアに来たことを理解しなければなりません。社会施設の子どもたちだけのグループもありますが、その数は約 2000 人です。彼らもまた法的な代理人とともにやってきました。施設の管理者であり、このような権限を与えられた教育者たちです。みんなドネツクとルガンスクの責任者の要請で私たちのところに来ました。私たちは、これらの共和国の首長から民間人を受け入れてほしいという依頼を受けたのです。

後見人付きの子どもを里親に預ける作業は、緊急性を要するものでした。最初のグループはモスクワ地方の仮設施設に移されました。子どもたちは、全員、自分たちのルーツを守り、速やかに家族のもとに戻れるようにするため、共和国首脳の要請により、後見人のもとに移されたのです。里親の形態、施設の形態にかかわらず、子どもたちに対する権利をもつ血縁者が見つかれば、どんな状況でも子どもたちを彼らに引き渡すことができます。彼らが制限されたり、権利を奪われたりすることはありません。これが重要なポイントです。

ロシアはキャンプがとても盛んです。100 年前から発展しています。現在のロシアでは、この形式で子どもたちのレクリエーション・サービスを提供する組織が約3万8，000あります。毎年、約500万人のロシアの子どもたちがそこで休日やレクリエーションを楽しんでいます。優待券や無料券は国の社会的支援の一種です。

当然、ルガンスク人民共和国、ドネツク人民共和国、ザポリージャ州、ヘルソン州の子どもたちも、そのようなレクリエーションの対象になります。

ですから、衛星から撮影しただけの「秘密キャンプに子どもたちが大量に連れ去られた」という調査結果は、陰謀論の一種だと考えられます。

私たちは情報技術の時代に生きており、どんな行動もすぐにインターネットに見られてしまいます。子どもたちはみんな携帯電話をもっていますが、ひどいことをされた、あるいは、何らかの再教育プロセスを受けたというような彼らのキャンプ映像を一度も見たことがありません

リボワ・ベロワ氏は同記者会見で、軍事作戦開始後に国外に移送された子どもについて、これまで「ウクライナ当局のいかなる代表からも連絡はない」と指摘しました。また、子どもを捜している親に対しては、「私にメールを書いてほしい。あなたの子どもを見つけるために」と訴えました。また、同氏は、養子になった子どもはウクライナ国籍を維持するとともに、ロシア国籍も与えられたと話しました。

# ウクライナにおける子どもの人身・臓器売買の実態

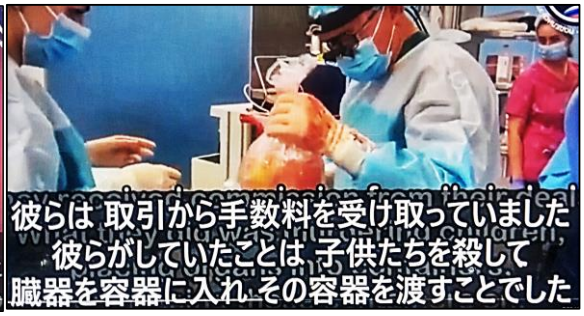
**BBC ニュース**
**（2006年12月12日）**

**BBC が入手した証拠は、ウクライナで健康な新生児が旺盛な国際幹細胞取引のために殺されてきた可能性を示唆している。**

ある活動家は解剖に立ちあうことを許され、証拠のビデオを収録した。彼女はその映像を BBC と欧州評議会に提供した。
報告書の中で欧州評議会は、出産時にさらわれた子どもが人身売買される文化が一般的にあること、および、その子どもたちがどうなったかについては病院スタッフに「沈黙の壁」があることについて述べている。
提出された映像によれば、脳を含む臓器が摘出され、いくつかの遺体はバラバラにされている。
英国のある法医学病理学者は、遺体がバラバラになっていることに深い関心をもっているという。
骨髄から幹細胞を採取した結果かもしれない。
病院のメンバー6 人はこの疑惑を否定している。

そして、2019年から2022年にかけて OSCE の人道・監視派遣団の一員として参加したヴェラ・ヴァイアンさんの衝撃的な告白映像が明らかになり、ウクライナにおける子どもの臓器摘出は、まぎれもない事実であることが示されました。次はヴァイアンさんの告発です。

ヴェラ・ヴァイアンさん



臓器摘出の様子

「ウクライナの防衛部隊に属する実験室が存在しました。それらは民族主義者の大隊でした。
彼らは取引から手数料を受け取っていました。彼らがしていたことは、子どもたちを殺して臓器を容器に入れ、その容器を渡すことでした。そして、（その容器は）穀物輸出コードで（国外に）持ち出されました。
私たちはそのような実験室を8つ解体しました。そこはまるで私たちが“地下室”と呼ぶような場所でした。大抵の場合、私たちはそこが“一掃された後”に辿り着きます。つまり、実験室は爆破された後に発見されます。私たちは火事の（後の）灰の上を歩くのです。
死体がありました。子どもたちの・・・。解剖された子どもたちです。つまり、子どもたちは切り刻まれたのです」（出典：https://youtu.be/YG9Aq-t-qVU）

こう見てくると、ロシアによる子ども連れ去り事件は、衛星画像のようないい加減な憶測をベースに日本や西欧社会でまるで鬼の首を取ったように報道されながら、ウクライナの子どもたちが臓器狩りの犠牲になった事実は全く報道されないという、恐ろしい不正義に私たちがさらされていることは今や明らかだと思います。

# 赤字覚悟の発行、注文受理、発送活動

実は、この『ウクライナ戦争論』は 2023 年 4 月に初刷りを発行して以来、5 月 6 月 7 月とどんどん普及が進み、刷っても刷っても間に合わない状況に直面し、ついに印刷部数は 5,000 冊を突破、なお注文が続いています。

なぜ、4か月で5000冊に達するような普及ができたのでしょうか？

一つは、多くの人が日本のメディアのウクライナ報道をマユツバの思いで見ていて、西欧メディア発の一方的な「悪魔のプーチン、英雄ゼレンスキー」報道に「何かおかしい」と感じていたこと、そして、その感情の延長線上で、「ホントはどうなんだ」という疑問を持ち、この手の著作物を求めていたということは大きいと思います。寄せられる感想文でも「待ってました！」という気分を反映した声が聞こえます。

第二に、この本がありきたりのメディア情報だけでなく、国際社会を飛び回っているツイッターや YouTube 情報などもこまめに参照して書かれたこともあり、日本社会ではテレビや新聞で決して扱われない情報をかなり丁寧に、くまなく目を通して内容に反映させたことも大きいでしょう。

第三に、私が Japan Skeptics（超自然現象を批判的・科学的に究明する会）の名誉会員であることもあり、政治家やマスコミの主張がどうであれ、理にかなわぬと感じたことはかなり徹底的に「隠された真実」を暴こうとする姿勢があることも、本書を特徴づけていると思います

さらに言えば、第四に、内外の平和博物館のネットワーキングの仕事に30年も関わってきたこともあって、「歴史と現実に忠実に向き合う」姿勢を保ち続けたことも、本書の性格を特徴づけていると思います。

そして第五に、著作権使用料はゼロで、ほぼ印刷実費だけで1冊200円という購入しやすい価格設定をしたことは大きかったと思います。少なからぬ読者が、「200円では安すぎる」、「2000円でもいいぐらいだ」と言ってくれているのは、そのことを反映していると思います。もともと「儲けるプロジェクト」としての性格が皆無で、ウクライナ問題についての世論が余りにも「反ロシア、ウクライナ支援」に偏向している状況に一石を投じる必要があると感じて、今後の安斎科学・平和事務所の運営に困難を来すような「大損をしない」限り、普及優先で行く方針でした。

第六に、もっと言えば、全編フルカラーで、図版を随所に用いながら分かりやすい説明を心がけたことも良かったと思います。

おまけに付け加えれば、第七に、注文先を著者のメールアドレスと自宅住所に絞ったことで混乱がなく、著者自身も「いまどれくらい普及されているか」を理解し、「どのタイミングで増補改訂版を出せばいいか」を直接判断できたメリットもありました。これは途切れなく改訂版を増刷できた理由でもあります。

そして、第八に、著者自らが注文に応えてパッキングをし、和紙に墨で書かれた絵手紙を添えて、パートナーの運転する車で郵便局通いをしたことも（しんどいですが）総じて好ましい評価につながったと感じています。

最後の第九に、静岡の粕谷たか子さんが新英語研究会関係者に、東京の高嶋伸欣さんが教科書ネット関係者に、宇治の紺谷延子さんが尹東柱詩碑建立運動関係者になど、広報に自発的に協力して頂いた方々が何人もおられ、読んだ方が「知人にも読ませたい」と、これまた自発的にお広め頂いたこと―これが大きな力になりました。心より御礼申し上げ、さらなるご協力をお願いします。

# お広めください

## この冊子の申し込み方法

この冊子を必要としている方は、名前、送り先住所・電話番号、冊数を書いて、次の方法でどうぞ。

メール：jsanzai@yahoo.co.jp
郵便：〒611-0023　宇治市折居台4－1－84　安斎育郎

1冊 200 円で、お支払いは下記のゆうちょ銀行をご利用頂くか、代金相当の切手でも結構です。

●ゆうちょ銀行から振り込む場合
【記号】14440　【番号】3883851　【口座名】アンザイイクロウ

●銀行から振り込む場合
【店名】四四八（読み：ヨンヨンハチ）　【店番】448　【預金種目】普通預金
【口座番号】0388385　【口座名】アンザイイクロウ

送料の目安

1～5 冊はレターパックライト　370 円

6～10 冊はレターパックプラス　520 円

それ以上は冊数と距離により 1000～1500 円程度